

議会だより

No.192

編集：議会広報特別委員会

平成29年 第3回臨時会(11月15日)

11月15日に開催され、承認2件、議案2件が提出され原案の通り決定しました。

こんなことが
決まりました

第4回臨時会を開催！

(H29年11月15日)

専決処分

- 専決処分した事件の承認について(平成29年度幌加内町一般会計補正予算(第5号))
 - ・10月22日執行された第48回衆議院議員総選挙に係わり433万5千円を補正。
- 専決処分した事件の承認について(平成29年度幌加内町一般会計補正予算(第6号))
 - ・9月19日、北部地域を中心とした大雨により母子里クリスタルパーク内の河川が氾濫したため河川の法面、管理用道路改修等により33万5千円を補正。

財産の取得

○医師住宅の財産取得

・財産の種類

- ↓医師住宅 4LDK 1棟
- 1戸 木造2階建て 延床面積224・7平方メートル

ル

・契約の方法

- ↓公募型プロポーザル選定審査に基づく買取契約

・契約の金額

- ↓4368万6千円

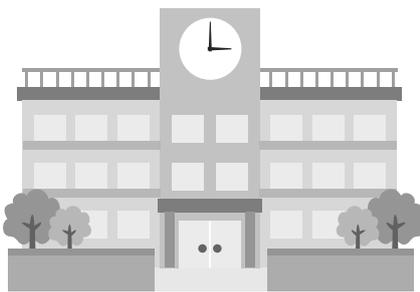
・契約の相手方

- ↓代表者事業者 三津橋建設株式会社 構成員 株式会社 社橋本川島コーポレーション

補正予算

○平成29年度幌加内町一般会計補正予算(第7号)

- ・幌加内高等学校セキユリティー強化対策工事及び幌加内高等学校寄宿舎インターホン設置工事等の増加により663万1千円を追加し、総額4億484万5千円とした。



●議会事務局からのお願い●

議長宛の文書や案内状は、議長公務の日程を調整する必要がありますので、直接議会事務局へ送付願います。

(送付先) 〒074-0492 北海道雨竜郡幌加内町字幌加内 4699 番地
幌加内町議会事務局宛

平成29年 第4回定例会(12月15日)

12月15日に開催され、3名が一般質問、同意5件、報告3件、議案25件、請願1件、意見書1件が提出され原案の通り決定した。

請願

- 障害児者の生きる基盤となる「暮らしの場」の早急な整備を求める意見書を国に提出することを求める請願
- ・総務厚生常任委員会へ付託し、協議の結果採択された。

同意

- 幌加内町功労者顕彰条例による表彰
- ・被表彰者は、次の5名とした。

杉山守氏
川嶋哲夫氏
杉山八重子氏
能代義秀氏
宮川恵秀氏

- 幌加内町産業貢献者表彰
- 本町産業の振興に顕著な功績があった方。
- ・被表彰者は、次の方とした。

佐藤誠悦氏

条例改正

- 町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

・人事院勧告に基づき期末手当の支給割合を年間4・3ヶ月から4・4ヶ月とし、平成29年12月1日から適用する。

- 町長等の給与に関する条例の一部を改正

・人事院勧告に基づき期末手当の支給割合を年間4・3ヶ月から4・4ヶ月とし、平成29年12月1日から適用する。

- 職員の給与に関する条例の一部を改正

・人事院勧告に基づき、1級の初任給を1,000円引上げ平成29年4月1日から適用する。

- 幌加内町営住宅管理条例の一部を改正

・緑ヶ丘団地、11棟22戸、添牛内団地、1棟2戸を取壊したことに伴う条例改正。

指定管理者の指定

- ・指定管理をしている施設は次のとおり。

- 「老人福祉寮の指定管理者」
↓社会福祉法人幌加内町社会福祉協議会
- 「北部地域包括ケアセンターの指定管理者」
↓特定非営利活動法人 よるべさ
- 「町民保養センター・物産館・農産加工総合研究センターの指定管理者」
↓株式会社ほろかない振興公社
- 「交流プラザの指定管理者」
↓幌加内町商工会
- 「農産施設の指定管理者」
↓きたそらち農業協同組合
- 「ふれあいの家・レークハウス・朱鞠内研修センター・朱鞠内湖畔ロッジ・朱鞠内湖畔公園の指定管理者」
↓シユマリナイ湖ワールドセ

ンター

- 「朱鞠内遊漁者管理・休憩棟・朱鞠内淡水魚種苗生産供給施設の指定管理者」
↓朱鞠内湖淡水漁業協同組合
- 「飲料水供給施設の指定管理者」
↓添牛内自治区水道利用組合

平成30年3月31日をもって、指定の期間が終了するため平成30年4月1日から平成33年3月31日までの3年間を全て再指定とした。

補正予算

- 平成29年度幌加内町一般会計補正予算(第8号)

・医師住宅購入費、パーク堆肥原材料費、除雪機械購入費(政和地区基礎集落圏のタイヤドザー)、幌加内小学校煙突改修工事、学校給食センター煙突改修工事等により2427万7千円を減額し、総額45億8056万8千円とした。

- 平成29年度幌加内町国民健康保険特別会計補正予算(第3号)

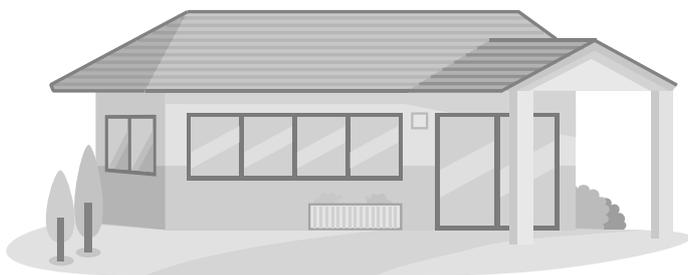
・国民健康保険システム導入負担金等により、1177万4千円を追加し、総額3億2211万3千円とした。

- 平成29年度幌加内町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)

・事務費負担金の決定、保険料等負担金相殺により244万4000円を減額し、総額2920万5千円とした。

- 平成29年度幌加内町介護保険特別会計補正予算(第3号)

・居宅住宅改修費の追加及びケアプラン作成件数の増加、特定入所者サービスの施設入所者等減により1573万円を減額



し、総額2億192万7千円と
した。

○平成29年度幌加内町簡易水道
事業特別会計補正予算(第2
号)

・水質検査業務委託料、水道
メーター器取替工事等により、
151万4千円を減額し、総額
7629万円とした。

○平成29年度幌加内町下水道事
業特別会計補正予算(第2号)

・合併処理浄化槽設置工事、農
業集落排水施設機能診断調査業
務委託料等により、589万3
千円を減額し、総額6708万
1千円とした。

報 告

○平成28年度幌加内町国民健康
保険病院事業会計決算認定につ
いて

○平成28年度幌加内町各会計歳
入歳出決算認定について

・審議の結果、認定することに
決定した。

意 見 書

○障害児者の生きる基盤となる
「暮らしの場」の早急な整備を
求める意見書案

・協議の結果、承認した。

一 般 質 問



中川議員

Q 学校給食費の無償
化について

A 今後の国の動向を
見極めながら検討
していく

Q 公立小中学校給食費の保
護者負担を全額補助とし

無償にする市町村が、今年度で
少なくとも83自治体まで増えて
いる。北海道でも近年、無償化
に取り組むところが増え17市町
村ある。本町において保護者が
負担する給食費は、食材費とし
て小学生1食250円、中学
生1食304円であり、年間
200日ほど配食をしていると
聞いている。無償化となれば小
学生、年間約5万円、中学生、
年間約6万円の負担軽減とな
る。無償化の理由としては、子
育て支援、若年層定住促進など

に加え給食を教育の一環として
捉える、「食育」推進をあげる自
治体が増えていると聞いている。
本町においても、是非、無
償化に向け検討を進めていただ
きたい。

答弁 教育長

A 本町の学校給食は、昭和
54年12月開設。学校・父
兄各位の特段なるご協力を頂き
38年目を向かえ業務も順調な運
びとなっている。給食内容は、
米飯給食週4回、麺給食週1回
とし給食を提供している。現
在、家庭が負担している給食費
については材料費分だけであ
る。

なお、人件費、施設設備費等
については全額町で賄ってい
る。学校給食費無償化に向けた
取組だが、滞納者の取り扱い
や、集金業務など教員の負担軽
減、子育て支援や定住しやすい
環境づくりに加え、給食を教育
の一環としてとらえる「食育」
推進などから無償化の動きが広
まっており、文部科学省の調査
では、昨年度、全国で約60自治
体が無償化を実施している。今
年度においても、給食費の無償
化については全国的に増加傾向
である。国では、今回の調査に

おいて成果や課題をつかみ、支
援策の検討などに生かすことに
しており、本町においても、今
後の国の動向を見極めながら検
討していく。

再質問

Q 無償化するにあたっては
財源が一番大きいと思わ
れるが、1食あたりの金額を勘
案すれば、本町の場合、約50
0万円ほどになると思われる。
今年の総選挙時にも教育無償化
もテーマとなっていた。幼児教
育から大学教育まで無償化を進
めるのが今の安倍政権の下でも
言われている。保育所や幼稚園
の幼児教育についても、基本的
に無償化を目指すことになっ
ている。細川町長になつてから、
保育所の無償化については実現
しているところである。大きな
捉えであるが、国費が投入さ
れ、更に乗せして町単費の額
が約1000万円と聞いている。
平成19年度または平成20年
度から国で幼児教育が無償化と
なれば、その分充分に学校給食
費が賄えるのではないか。具体
策を含めて検討できないもの
か。

再答弁 町長

A 現在、国も子育てづく
り・環境づくりに力を入
れているところであり、福祉政
策の世代間競争とも言われてい
る。給食費の無償化について
も、以前から検討をしていると
ころであるがメリットもありデ
メリットもある。財源確保の問
題は、現在、過疎ソフトで対応
しており、良好な財源組織と
なっている。現在、幌加内町の
過疎ソフトはマックスであり、
今回、この政策を仮に無償化と
すればプラスアルファにはなら
ないため、財源は持ち出しにな
ると考える。いずれにしてもメ
リット、デメリットの双方を兼
ね合わせ検討を進めている段階
である。



一般質問



齋藤議員

Q 「第三雨竜橋梁の保存危機を迎えている」

「経費をかけないで残す。強制的な解体は行わず、朽ちるまで残す。」を基本姿勢とする

Q 保存会が発足して14年となる。廃止となった深名線の象徴として第三橋梁の維持や保存が目的であるが、会員の高齢化により存続の危機を迎えている。深名線が廃止となった平成7年以来、全ての路線を始めた鉄橋等に至るまで撤去すべきと町の議決事案に対し、撤去間近となった平成15年に町文化連盟・観光協会・政和自治区や町民有志が話し合い、深名線の中で最大の遺構である「第三雨竜

川橋梁」だけは後世に残し、公共交通として果たした役割の証として存続を求め、4年の年月をかけ第三雨竜川橋梁の自然保存の承認を町から受けた貴重な鉄橋である。この運動を実施した方々が中心となり、保存会を設立、第三橋梁の維持・保存に力を注ぐため年間作業、会報の発行、土木遺産の認定、他市町村との鉄橋文化の交流、本町出身者ふるさと会の親睦交流等、保存活動にとどまることなく町の振興・発展に多くの努力をしてきた。保存会のこれまでの活動の評価と、活動できず存続が困難であることが第三橋梁の撤去につながるのか。

町長

A この14年間にわたる、保存会の活動については精力的な活動があったものと敬意を表する。「保存会の高齢化による活動の存続危機が、第三雨竜川橋梁の撤去につながるか」について、町としては保存会の目的と、その活動に伴い解体撤去を取りやめた経緯があり、遺産としての価値や保存会の活動を考えて、安易に解体に至ることとはない。平成19年に合意した「経費をかけないで残す。強制

的な解体は行わず、朽ちるまで残す。」を基本スタンスとする。保存会だけではなく、スポーツ活動、文化活動などに関して、人材不足が生じているのを肌で感じている。過疎化が進み人がいなくなり一番怖いのはその町の多様性が失われてしまうことに危機感を抱いている。しかし、後継者を育てること自体も当該団体の大切な責務である。今後において、これまでどおり保存会が中心となった活動を継続し、後継者の育成などを含め、他の優良事例となるべく活動を期待する。

再質問

Q 現在の保存会役員と町との間で、十分に話し合える場を設けるべき。町に窓口を設け、将来にわたる「第三雨竜川橋梁」で話し合いたい。保存会の問題を町がどのようにしたらいいのか。検討委員会等を作れないか。

町長

A 行政の窓口は地域振興室で対応している。定期的な総会などに担当者が出席しコミュニティを図っている。行政から保存会に投げかけること

はない。しかし、窓口があることで保存会の方が来られコミュニケーションを図ることに关しては、どんどん来ていただきたい。



「第三雨竜川橋梁」

議会の様子をホームページで見ることができます！

議員の活動や広報など掲載しています。
議会ページは町ホームページから見るすることができます。



小関議員

においても、改修等が緊急な課題と考える。

1点目として、玄関ホールの床タイルが剥がれている箇所が多く、転倒等により身体的障害を起す恐れが危惧される。また、見た目にも見苦しく、補修されるべきであり、玄関ドア周囲床面の滑り止め処置等の対策が必要ではないか。

町長

中央生活改善センターについては、昭和44年11月

A 利用者からの意見を参考にしながら、改修していく

Q 中央生活改善センターは、昭和44年12月頃より利用され築48年目になっている。立地、規模等、利便性が良く地域にとっては多目的施設として需要度の高い公共施設として活用されている。しかし、老朽化にともない修理、改修など住民要望が度々出ていたと認識している。町政懇談会では、平成31年度の取り壊し計画にあわせて代替施設設計画を作成していくとの事だが、仮に代替施設が整備されるまでの経過処置として、この施設管理責任の立場

懸念され、当初予算に計上し補修を行う。また、玄関ドア周辺の床面滑り止めの処置については、利用者からの意見も参考に検討していく。

将来的には取り壊す施設のため、役場庁舎等を利用してもらいたい

Q トイレ洋式化への取り組みについて

A 将来的には取り壊す施設のため、役場庁舎等を利用してもらいたい

中央生活改善センターの来訪・来場者に障害のある方が車イスでトイレを利用しようとしたが、出入口が狭く利用ができなかった。加えて使用できるトイレが和式用しかなく洋式用が未整備になっていることに対応を取組むのか。

Q 中央生活改善センターの来訪・来場者に障害のある方が車イスでトイレを利用しようとしたが、出入口が狭く利用ができなかった。加えて使用できるトイレが和式用しかなく洋式用が未整備になっていることに対応を取組むのか。

町長

多目的トイレの整備について、水周りを含めたトイレ改修になると高額な費用も発生することから見合わせている。近い将来、取壊す施設のため利用者の方には大変不便をかけるが、役場庁舎玄関は段差に対応するスロープが備えてあることから、役場庁舎のトイレを利用してもらうよう周知している。

A 多目的トイレの整備について、水周りを含めたトイレ改修になると高額な費用も発生することから見合わせている。近い将来、取壊す施設のため利用者の方には大変不便をかけるが、役場庁舎玄関は段差に対応するスロープが備えてあることから、役場庁舎のトイレを利用してもらうよう周知している。

施設管理の不備が住民サービスへの本当の向上となっているのか。中央生活改善センターについては、耐震化問題等がネックになっているが解体方向であるとの認識をしている。代替施設となっている施設が過去に建設されているが、この代替施設の利用法について、どのように活用をしていくのか。

く。

Q 代替施設、農業活性化センター「アグリ」の活用について

A 冠婚葬祭等に活用が有効と考える

施設管理の不備が住民サービスへの本当の向上となっているのか。中央生活改善センターについては、耐震化問題等がネックになっているが解体方向であるとの認識をしている。代替施設となっている施設が過去に建設されているが、この代替施設の利用法について、どのように活用をしていくのか。

代替施設については、冠婚葬祭のポスト、中央生活改善センターとしては既に建設をして運用している、農業活性化センター「アグリ」が中央生活改善センターの代替施設としている。家族葬など小さな葬儀などは現在、「アグリ」で対応している。これから計画を立てることになるが、冠婚葬祭の代替施設については「アグリ」が

有効であり、整備されていない必要な物を改善しながら中央生活改善センターの代替施設として整備していくのが、もっとも現実的ではないか、あるいはコストパフォーマンスから一番良い方法ではないかと考える。

町長

代替施設については、冠婚葬祭のポスト、中央生活改善センターとしては既に建設をして運用している、農業活性化センター「アグリ」が中央生活改善センターの代替施設としている。家族葬など小さな葬儀などは現在、「アグリ」で対応している。これから計画を立てることになるが、冠婚葬祭の代替施設については「アグリ」が

有効であり、整備されていない必要な物を改善しながら中央生活改善センターの代替施設として整備していくのが、もっとも現実的ではないか、あるいはコストパフォーマンスから一番良い方法ではないかと考える。

町長

代替施設については、冠婚葬祭のポスト、中央生活改善センターとしては既に建設をして運用している、農業活性化センター「アグリ」が中央生活改善センターの代替施設としている。家族葬など小さな葬儀などは現在、「アグリ」で対応している。これから計画を立てることになるが、冠婚葬祭の代替施設については「アグリ」が

有効であり、整備されていない必要な物を改善しながら中央生活改善センターの代替施設として整備していくのが、もっとも現実的ではないか、あるいはコストパフォーマンスから一番良い方法ではないかと考える。

町長

代替施設については、冠婚葬祭のポスト、中央生活改善センターとしては既に建設をして運用している、農業活性化センター「アグリ」が中央生活改善センターの代替施設としている。家族葬など小さな葬儀などは現在、「アグリ」で対応している。これから計画を立てることになるが、冠婚葬祭の代替施設については「アグリ」が



「中央生活改善センター」

決算特別委員会

平成28年度決算審査：

全て認定!!

平成29年度第3回定例会において「決算審査特別委員会」に付託された、一般会計をはじめ各特別会計、並びに病院事業会計までの28年度決算は、それぞれ厳正に行った結果、全ての決算は認定すべきと決定しました。

委員審査での質疑を抜粋し、次のとおりお知らせいたします。

- ・決算審査日 平成29年10月23日～26日（4日間）
- ・特別委員会委員 議員7名（議長、議選監査を除く）

一般会計

企画費

中川議員

Q 木質バイオマス等導入可能性調査業務委託料の關係だが、以前、総務厚生常任委員会でも報告を受け、その時点では、調査中であるとの報告だった。その後、調査研究での結果がどうだったのか概要報告願いたい。

地域振興室主幹

A この調査業務の目的だが、本町の地域特性を活かした木質バイオマス燃料を話し、燃料を製造する一連の事業について対象施設ごとに評価、経済等の検証を行うことで実施した。その結果、概要として森林バイオマスとして未利用材、間伐材。これを木質バイオマスとする。農業残渣としては、「そばがら」としたものを検討していた。その結果、木質バイオマスについては、調達コストや運搬費を考慮し、調達可能量は年間165トン程度。「そば

がら」については、現状、年間150トン程度の推定がされるとの調査結果となった。しかし、この保存量では、消費カロリー率が非常に不足していることから、これらを利用した施設への導入については既存の化石燃料と併用した運転になるだろうとの調査結果が出た。公共施設への導入にあたっては、当初、保健福祉総合センターとせいわ温泉への導入について絞って検討していた。熱源システムの導入経費については、木質バイオマスボイラーを設置する場合、せいわ温泉に設置する場合で1億5,000万円のインシヤルコスト。「そばがら」に限ったボイラー設置となると、1億2,000万円程度のインシヤルコストがかかる結果となった。これらの燃料製造施設を建設する場合、木質チップ製造で1億3,000万円。「そばがら」ペレット製造で8,000万円のインシヤルコストがかかる算出結果となった。以上のことから、木質バイオマス、そばがらペレット、両方において保存量が非常に少なく経済性の観点からも、非常に厳しい結果となったことから木質系バイオ

マスの導入については、当面見送るとの判断をした。

商工振興費

田丸議員

Q プレミアム付商品券発行補助金についてだが、昨年からホクレン商事においても商品券が使用できることになったが、それに伴い20パーセントのプレミアム消費券の売行き、また、町民の反応など、どの様に捉えているのか。

産業課長

A 昨年、ホクレン商事も対象としている。売行きについては、前期、後期の2回にわけて発行しており、全体5,000セットとし販売総数としては変わっていない。このため、消費が伸びているとは感じてはいない。しかし、ホクレン商事で使用したいとの声が相当であったことから対応し利便性は図られたと思っている。

しかし、プレミアム商品券については商工会内でも使用される商店に偏りがあるとの声も聞いている。それについては、今後商工会と中身のあり方等について、議論しながら次の事業

に取組んでいきたい。

観光費

中川議員

Q ふるさと納税謝品585万4735円の決算となっているが、返礼品はどのような内容となっているのか。

産業課長

A 返礼品の中身として、大きく占めているのは「そば製品」である。乾麺、生めん等を出している業者自身が相当数あり、そば粉を含めて数多く出している。昨年の秋には、農作物、ジャガイモ、カボチャも出している。これについては、出してから1ヶ月でほぼ完売している。また、朱鞠内湖ワールドセンターではフィッシング体験ツアー、まどか等の宿泊などアクティビティにも若干、使用しているところであり、その返礼品に対しての、希望もかなりの件数がある。

塵芥処理費

小関議員

Q 焼却炉の関係についてだが、建設されてから相当年数が経過しているものと思われる。平成28年度決算も修理費が計上されているが、今後どこまで修理が可能なのか。焼却炉の更新を含めた検討はないのか。

住民課長

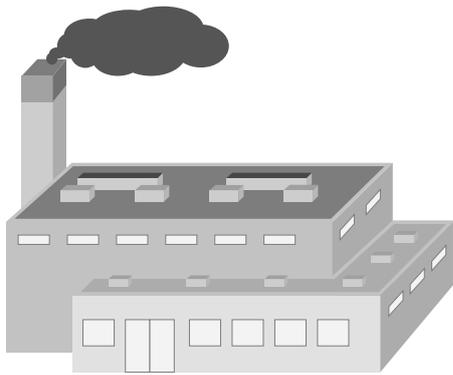
A 焼却場については、平成19年から供用開始をしている。焼却は止めることができない事から、毎年、必要箇所の補修をしている。全体の更新となると、建設場所等の問題がある。まだ10年なので補修をしながら長く使用していきたいと考えている。平成30年度に向けて修理箇所が出てくるが、予算時に説明をする。

中川議員

Q 比較的、新しい形の焼却炉だと思われるが、他の自治体では平均的にどのくらいの耐用年数としているのか。

住民課長

A ゴミを燃やす時間帯にもよると思われるが、他町の情報等は現在、持っていないため、はっきりとした回答はできない。本町の施設については、なるべく点検しながら長く使用できるよう職員で対応しているの理解願いたい。



国民健康保険特別会計

中川議員

Q 医療給付費が全体として昨年より、かなり下がっていることは良いことである。考えられる要因として、特別な手当てや給付の基準が変わったことなどがあるのか。

住民課主幹

A 入院件数が減っていること及び被保険者数が総体的に減っていることで、その分の給付額が下がっている。

中川議員

Q 滞納繰越分についてだが、当年度末で340万円程繰越がある。来年度から国保の体制が変わり都道府県化されるが、繰越分が今後、どうなっていくのか非常に気になるところである。特に来年を見据えて、どのような扱いになっているのか。

住民課長

A 平成30年度からの都道府県化による滞納繰越分であるが、都道府県化になっても徴収事務は町で行わなければならないことから、今までと同じように督促、徴収事務等、また事

務処理等は行っていかなければならないものである。イメージ的には、同じように対応していく。



★ 議会を傍聴してみませんか ★

定例会は3月・6月・9月・12月の年4回開催されます。傍聴の手続きは簡単、受付簿に「住所」「氏名」を書いていただければ結構です。

議会の
開催時期

- ・第1回定例会 3月中旬
- ・第2回定例会 6月中旬～下旬
- ・第3回定例会 9月中旬
- ・第4回定例会 12月中旬～下旬

議会事務局／役場3階 ☎ 0165-35-2121 (内線373)



梶加内町税経対策協議会長

中西 博さん

3メートルを超え、マスクも連日取材に来るほどの、記録的豪雪により毎日の除排雪でのお疲れの中、目を汚してしまうような文章で申し訳ございません。私自身も休みなく降る雪を除雪して、ここ最近も身体もしっかり精神的にも疲れがきているところでもあります。このまま5月中まで雪が解けてくれるのか、今年の作付ができるのか要らない心配もしておりますが、できれば行政、関係機関のご助力をいただければありがたい限りです。

私が所属しております「税経協議会」において所得税と消費税の申告の補助業務も佳境となってきました。白色会員の大半の方々の申告書の作成補助は無事終わり、後は青色会員の方々ですが、ここからが大変です。事前に提出頂いた青色決算書の間違いを確認し、修正後申告書への記載へと進めていくのですが節税のため、悩まれているのか中々申告まで進まない方がおられるところもあります。私が税経にお世話になります。私が税経にお世話になります。始めた頃は、各地区の青色相談員の指導により記帳し期日を指定して申告書作成を大会場にて作成提出をお願いされておりましたが、ここ10年間ほどは事務所に来ていただき税経委員の指導、補助を受けながら、個別に作成していくシステムに変わりました。このシステムに変更して当初は期日までに作成提出頂いておりましたが、ここ数年は控除等の添付書類の多さにより提

出が遅くなってきていると思われます。

我々税経としては、会員の皆様が納得して申告して頂けるようスタッフ全員で誠心誠意対応させていただいております。

少し昨年を振り返ってみると、積雪は平年並みの中、雪解けも早く温床づくりは楽な方ではなかったのかなと思います。また水田の耕起も順調に進み田植えも早く終わったぐらいです。ただ此処からが天候不順となり、そば等の畑作物には、いつ耕起して播種したか、またはいつ刈り取りしたかで収穫量に違いが大きい年でした。それに伴い、会員の皆様の申告への進捗状況は大いに違うほどになっております。申告書作成のおりに、何をしても収量が上がったのか、また何が失敗したのかをお聞かせいただけると役得ではないのかなと思うところではあります。

米の生産調整等を国政でしなくなり、市場の状態を見て各農協、自治体で生産調整をそれぞれしなさいとのことなので我々農家自身も市場の動向をみることを覚え、また需要の求めるものを作ることを今以上に進めていくようにしなければならぬと思います。し、やっていきたいと思いましたが、事売るといことは農業者が一番苦手ではないでしょうか。今は希代のリーダーが、孤軍奮闘して需要との駆け引きをさせていただいておりますが、今後同じようになりリーダーが現れる訳ではないので、どうなるか不安でしょう。ありがとうございます。私自身も微力ではありますが助力していきたいと思っております。

農業者も少なくなり誰もが役務をしなければならぬ時代となっていますが、それでも一部の人たちに無理をさせている、このようなことをしている。自身の経営と、また関わった組織の運営と業務に日々を追われ疲弊していき、わが町全体に良いことはないのだからと思うところではあります。しかしながら名案など浮かぶ訳もなく、また能力も人望もないものですから日々を流されているだけです。梶加内の農業は大丈夫でないかと思うこともあります。若い農業者と話していると彼らのヤル気と知恵は、当時の私など恥ずかしくなるほどのものですし、彼らの意見を聞くともまだ新しいものに取り組むのもいいのかなと重くなった腰を上げていることもありました。